

アナフィラキシー

大野内科医院
大野修一

2019年1月19日

アナフィラキシーの定義

アナフィラキシーとは…

アレルゲン等の侵入により、複数臓器に全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応

アナフィラキシーショックとは…

アナフィラキシーに血圧低下や意識障害を伴う場合

事例11

- * ・維持透析中の70歳代男性。透析室で発症。Ai 無、解剖無。
- * ・原因薬剤は、蛋白分解酵素阻害薬のフサン。
- * ・過去にフサンの特異IgE・I・II抗体の陰性を確認。その後、フサンを4回使用したが、アレルギー症状の出現無。
- * ・フサン投与開始(透析開始)から2分後に頸部の痒みを訴え、6分後に意識低下・眼球上転、7分後に徐脈となり、8分後抗ヒスタミン薬投与。13分後にアドレナリン1mgを静脈内注射、気管挿管し救急処置を実施するが、約11時間後に死亡。
アナフィラキシー 専門分析部会・再発防止委員会／医療事故調査・支援センター 平成30年1月より

医療事故の再発防止に向けた提言

注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析より

- * **【アナフィラキシーの認識】**
アナフィラキシーはあらゆる薬剤で発症の可能性があるため、複数回、安全に使用できた薬剤でも発症し得ることを認識する。
- * **【薬剤使用時の観察】**
造影剤、抗菌薬、筋弛緩薬等のアナフィラキシー発症の危険性が高い薬剤を静脈内注射で使用する際は、少なくとも薬剤投与開始時より5分間は注意深く患者を観察する。
- * **【症状の把握とアドレナリンの準備】**
薬剤投与後に皮膚症状に限らず患者の容態が変化した場合は、確定診断を待たずにアナフィラキシーを疑い、直ちに薬剤投与を中止し、アドレナリン0.3 mg(成人)を準備する。
- * **【アドレナリンの筋肉内注射】**
アナフィラキシーを疑った場合は、ためらわずにアドレナリン標準量0.3 mg(成人)を大腿前外側部に筋肉内注射する。
- * **【アドレナリンの配備、指示・連絡体制】**
アナフィラキシー発症の危険性が高い薬剤を使用する場所には、アドレナリンを配備し、速やかに筋肉内注射できるように指示・連絡体制を整備する。
- * **【アレルギー情報の把握・共有】**
薬剤アレルギー情報を把握し、その情報を多職種間で共有できるようなシステムの構築・運用に努める。